

卒業生 リレー寄稿12

「南高への思い」



山下 達也

平成25年3月
環境科学科卒

私は平成25年3月に高松南高校の環境科学科を卒業後、現在は宮崎県の都城市にある南九州大学環境園芸学部に在学しています。

私は小学生の頃から野菜作りが好きで、庭にある畑でよく野菜を育てていました。そして農業に興味を持ち、環境科学科へ進みました。入学後は地域の方々に喜んでもらえるようにトマトを中心に農産物を数多く作りました。中でも一番心に残っているのは、課題研究で実験したベツトボトルに水道水を入れ、そこにトマトの脇芽を発根させて育てたことです。初めは実習で脇芽を取り除いていたのですが、根の近くにあった脇芽から少し発根しているのを発見し、水に漬けておけば成長するのではないかと思いました。脇芽は成長するけれども小さく、学校で育てている立派なトマトの様には成長させることは出来ませんでした。当時を振り返ると十分な知識や技術がなかったために満足のいく結果を得ることが出来なかったのだと思いました。

そこで、養液栽培について詳しく学びたいと思い現在の大学に進学することを決めました。進学後は、蔬菜園芸学研究室に所属し、教授と共に廃液の出ない環境保全型養液栽培システムを開発しています。現在はそのシステムを基にココヤシ培地を用いた養液栽培において、培養液濃度の差がトマトの生育・収量・品質に及ぼす影響について企業と共同で研究を行っています。

現在、卒業論文を取り組む中でトマトに触れ、トマトと対話し、今必要なことは何かを考えなければならぬ毎日です。そこで学んだトマトの栽培方法を中心に教育実習では、生徒一人一人に分かったと思える授業展開を目標に授業を行っていました。そして何か1つでもトマトの栽培に興味を持ってもらい授業や実習を通して知識や技術を分かりやすく伝えられるようにしたいです。将来は、これまでに得られた知識や技術を生かし、農業の教員になり自分の力を最大限に発揮し、地方創生を踏まえた上で香川県の農業の発展に貢献することができれば良いと考えています。

「学びのきっかけ」



藤澤公美子

平成14年3月
専攻科衛生看護科卒

私は十一歳からの夢であった看護師になるために、平成九年四月衛生看護科に入学しました。在学中の五

年間、楽しいことも辛いこともたくさんありました。卒業し、高松医療センターの神経筋難病棟で働き始めたのですが、授業でもほとんど触れたことのない分野で、日々学ぶことが多く前に向き進むことが精いっぱい、目標を持つことも忘れていました。そのような時に実習指導者になる機会をいただき学生を指導する喜びと、大変さを知りました。衛生看護科の先生方はいつも学生たちの事を考え苦勞されているんだなあと感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

学生指導を行う中で、私の中に新たな目標ができ、目標に向かい進むことにしました。そのきっかけとなったのは、学生たちの学ぶ姿です。日々色々学んでいく学生たちを見て、学べることを羨ましく感じるようになりました。自分も学びたい・勉強したいという思いが日々膨らんでいました。学びたい気持ちがあるうちに認定看護師の資格を取りたいとも考えるようになったころ、難病看護士の認定をとる機会をいただき認定看護師になりました。(本当は違う認定を考えていたんですけどね...) 難病病棟で働いていても難病に関してはほんの一部の事しか知らない事に衝撃を受けました。入院中や、これから進行していく患者さんのために少しでも役に立ちたい、一人でも多く専門性の高い看護師を育てていくことが私の役割だと自覚したころ、四国こどもとおとなの医療センターへ師長としての転勤が決まりました。現在は成育外来で新人看護師と同じように一から学んでいます。師長

「南高で身に付けたもの」



熊野 幸

平成25年3月
家政科卒

としてスタッフの育成、部署の運営今まで上司に委ねていたことが自分の肩にかかってきています。日々多くの課題と向き合い目の前のことをこなししていく事で精一杯ですが、また難病の認定看護師として働ける日が来たためにも、自己研鑽を重ね成長していきたいと思っています。やっぱり看護職は一生勉強が必要ですね。

私は平成25年度3月に高松南高校の家政科を卒業して、現在は高松市内の保育園で保育士として働いています。小さい頃から子どもが大好きで将来は、保育士になりたいと強く思っていました。そこで、保育のことが学べる高松南高校の家政科に進学を決めました。2年生からは、人間福祉コース(現在の保育子ども文化コース)を選択し、冬には高松南保育園のクリスマス交流会に参加したり、保育検定を受けたりと保育に関するたくさんのお話を学びました。

保育士になるという夢を叶えるために、地元の短大を受験する際に、先生方は放課後の遅い時間まで、何度も面接練習をしてくださいました。面接の日が近づくとつれて不安になり焦ってしまう時もありましたが、その度にアドバイスや励ましをもらい、頑張ろうと前向きに考えることができました。南高の先生方は最後

の最後までサポートしてくださり感謝の気持ちでいっぱいでした。また、友だちの支えも大きく、一緒に頑張っている仲間がいたからこそ諦めずに受験にのぞめたのだと思います。

短大に入学してからの生活は、毎日の勉強や初めての実習で想像していた以上に大変なものでした。しかし、そんな大変な毎日乗り越えられたのは高校生活で身に付けた忍耐力のおかげでした。家政科では保育の授業以外で被服実習もありました。授業中に仕上げられなかった作品は、放課後に残って粘り強く完成させたのを今でも覚えています。また、部活動では運動部に所属し、三年生の時には部長を務めました。部活をする中で練習が辛いと思う時もありましたが、チームを引っ張っていいことができました。南高でこのような経験ができたからこそ、短大でのハードな毎日にもくじけることなく無事保育士の資格を取得できたと感じます。現在は、保育園で1歳児クラスを担当していますが、保育士は本当に大変な仕事だと痛感しています。子どもが好きなだけではできない仕事です。でも、大好きな子どもたちとこんなに近くで触れあえる仕事は他にはないとも思っています。疲れていても子どもの笑顔を見ると、小さい頃からの夢だった保育士ができて幸せだと感じています。今、将来のことで悩んでいる人はきっとたくさんいると思いますが、高校生活で身に付けたことに自信を持ち、自分を信じて諦めずにがんばって欲しいと思います。